

「山田小学校の下名棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

始良市立山田小学校

2 学年・人数

4・5・6年 13人（希望者で実施）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年11月～1月

(2) 発表の日時・場所

令和3年1月10日（日） 校区コミュニティ協議会主催 鬼火焚き

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

下名棒踊り（しもみょうぼうおどり）

(2) 由来

江戸時代の初め頃，伝わったとされ，農業の田植え祭りで奉納されていたとされる。棒や鎌で地面をたたいたり，お互い打ち合い音を立てたりして悪い物や虫などを追い出す意味があり，五穀豊穰を祈る踊りである。

(3) 構成等

1組6人構成三尺棒を使う踊りと鎌を使う踊りがある。1番と2番で手具を持ち帰る。白はちまき，法被，たすき，色鮮やかな飾りを付けて何組かで隊形を組み踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

5～6年前までは，地域の方が学校に指導しにいらっしゃったが，亡くなってから，学校で職員が過去の映像や歌の録音から指導に当たっていた。そのため，棒や鎌，法被や襷など全て学校に保管していた。

しかし，令和元年度から地域コミュニティに「棒踊り保存会」を設置し，校区コミュニティ協議会長が保存会の会長となり，棒踊りを継承していくこととなった。よって，学校は運営主体ではなく協力していく形となった。練習に関しても授業ではなく，放課後や週休日を利用し，地域の方が指導していく形で行っている。発表の場は地域行事の「鬼火焚き」（1／12）で，歌，踊りを披露する。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

4年生から練習をしているため，大まかな動きについては，高学年の子どもが下学年の子どもへ指導したり，チームとして話し合ったり，助け合ったりする活動を通して郷土愛を育てている。また，本年度より中学生や大人と一緒に練習となったため，先輩や地域の方々とのつながりもより強固なものとなっているように思う。

7 取組の様子



8 参加児童・保護者・教員等の感想・意見

参加児童：地域の人から教えてもらい、楽しく練習ができています。自分もしっかり踊っていきたい。

保護者：学校だけでするよりも、地域との関わりが生まれてとてもよいと思う。子どもたちの成長が見られるよい取組だと思う。

教員：学校には誰も指導できる職員がいないので、地域主体(コミュニティ)で伝承していくことになり、よかったと思う。まだ始まったばかりだが、学校もできる限りサポートしていきたいと思う。